# 「同志社山手」地区におけるまちづくりデザイン提案

春・秋連結学期 | 京田辺校地開講科目

## 1. 目的・概要

the purpose and an outline

本科目では、「環境共生」「安心・安全」そして「同志社らしいデザイン」をコンセプトに、京田辺キャンパスの南側に位置する、「同志社山手」地区に対するまちづくりデザイン提案を行います。現在「同志社山手」地区は、まち開きが行われ、一部では入居が進む中、地区の大部分は現在も整備が続いています。本科目は今まさに整備が進んでいる「同志社山手」のまちづくりに対して、学生と地域住民が連携しながら、具体的な提案を行います。

まちにおける調和のとれた建築・景観デザインの重要性は現在広く認識されている一方で、環境保全と社会生活の両立・調和も重要な課題として注目されています。今後は資源循環型・持続可能型エネルギー利用の観点から、調和のとれた社会生活を実現するまちづくりが必要です。

そこで本科目では、都市・建築デザイン、エネルギー環境問題、住民間交流および地域連携といった面から、調和のとれた持続可能なまちづくりを目指し、「同志社山手」地区に対して、建築・都市環境のハードおよびコミュニティ形成のソフトを通じてまちづくりデザイン提案を行います。前期はまちづくりの基礎を学び、「同志社山手」について理解を深め、テーマ・問題点の抽出を行って学生の視点による提案内容を練り上げて行きました。また後期は政策学部の科目と合同で、現在お住まいの方に対して私たちのまちづくり提案を含めた住環境・コミュニティ形成に関するアンケートを実施し、まちづくり提案の参考にしました。これらと並行して、事業者である独立行政法人UR都市機構とやり取りを重ね、産官学で構成されたまちづくり協議会で専門家の方に意見を頂くことで、地域に根ざしたまちづくり提案を現実的な形にまとめ、住民の方に発表しました。

### annual schedule

| | | |
|---|---|---|
| **[ 春学期 ]** | | |
| 2009年 | 4月 | プロジェクト概要の把握、同志社山手への現地視察、開発概要の把握 |
| | 5月 | コミュニティ形成を学ぶ |
| | 6月 | グループに分かれてブレインストーミングによるアイデア出し ▶ みんなの前で発表 |
| | 7月 | まちづくり提案まとめ |
| **[ 秋学期 ]** | | |
| | 10月 | 住民の方に対して実施するアンケート内容を議論、作成 |
| | 11月 | アンケート配布 |
| | 12月 | アンケート返却 ▶ アンケートを参考にしてまちづくりデザイン提案（12 / 10 SUC協議会で発表） |
| 2010年 | 1月 | ～ |
| | | 住民報告会で発表 |
| | | まとめ |

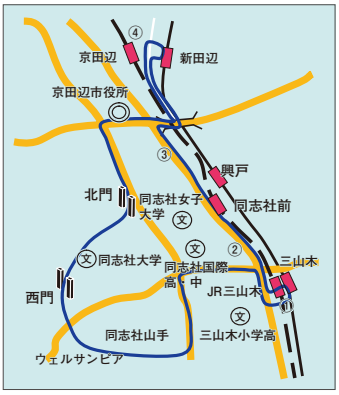
# 2. 成果達成度

the achievement degree

私たちが提案していくまちづくりデザインを以下に紹介します。

## 1 ｜ 交通機関について

環境共生のまちづくりを実現するには公共交通機関を活用し、低炭素化を図ることが有効ですが、現在同志社山手と三山木間を運行するバスは利用者が多くありません。アンケートの結果では、普段買い物などでよく利用する施設は三山木周辺から新田辺まで広がっていました。そこで私たちは運行ルートの利便性に問題があると考え、市役所等の主要施設を通過する新田辺・三山木・同志社山手の循環バスを提案し、利便性の向上を図ります。地域の活性化といったメリットも生まれますが、導入に際しては路線の採算性が一番の課題になると思われます。そのため、テストケースとして循環バス導入を大学側に提案し、利用状況を元にバス会社に路線拡大を要望していきます。




## 2 ｜ 周辺施設について

同志社山手に商業施設はまだ無く、まちのイメージには今後誘致する施設が重要になります。アンケート結果では、病院、食料品店、図書館、交番といった要望が多く、ゲームセンター、パチンコ屋といった娯楽施設の要望はありませんでした。このことから、お住まいの方は安心・安全を重視していることが伺えました。そのため地区内に誘致する施設は安心・安全を第一とし、地域の活性化および環境を配慮した最適な配置案を提案していきます。

また、同志社大学の施設利用の要望もありました。そこで地域連携を促進する観点から、一般利用可能な施設について、ホームページ作成等による積極的な情報公開により、敷居の低い大学を目指します。大学と地域の敷居が低くなることで交流サークルの設立やカルチャースクール（実験教室、料理教室、音楽教室など）の開催につながり、コミュニティの形成に役立ちます。

## 3 ｜ まちの緑化について

環境との共生を目指す同志社山手として、まちの緑は重要な意味を持ちます。しかし、整備途中であることを考慮しても緑は少なく、アンケートの結果からは緑化に加え、公園の活用を望む声がありました。そこで、現在ある公園を緑の拠点として有効活用し、まち全体の緑化を進めることを提案します。まち全体の統一感を考え、さらに同志社カラーの紫を基調とした花（ラベンダー、すみれ等）を含んだ彩りのあるまちを目指します。実際の問題点としては、手入れが行き届いていないことがアンケートから分かりました。適切な管理を行うために、行政への提言、管理会社への委託を検討するだけでなく、自治体を中心とした活動を取り入れ、住んでいる方の意識の向上による持続的な緑化を目指します。

### 4 | 街灯・門灯について

安心・安全のまちづくりに、まちの明かりは欠かせません。住んでいる方の感想としては、現在の街灯は適切という声が多い一方、住宅内の明かりが欲しい、足元を明るくといった感想も多くありました。そのため、私たちは新たに街灯を設置する代わりにLEDライトを各家庭に設置することを提案します。LEDライトは、消費電力は白熱電球の20分の1、長寿命、虫が近寄らないといった様々な利点があります。このLEDライトを、家を建築する際の条件として織り込むことを提案します。

### 5 | 省エネのライフスタイルについて

家庭の低炭素化には、住んでいる方のライフスタイルが鍵となります。同志社山手の$CO_2$排出量をアンケート結果から算出すると、京都議定書が基準年とする1990年とほぼ同じであり、特に自動車利用の$CO_2$排出量が多いことが分かりました。また、省エネ行動による$CO_2$排出量の削減を確認できましたが、行動の実施率は高くありませんでした。そこで私たちは省エネ行動の$CO_2$削減効果を分かりやすく数値化することで住民の方に身近に感じてもらい、実施率の向上を目指します。具体的には、冷暖房の設定温度を緩めたり、自動車から公共交通機関に変更した場合の$CO_2$削減量を数値化します。また、これらの情報を住民の方が容易に入手できる手法を検討します。

**[ 活動報告 ]**

受講生全員で現地に赴き、各戸にアンケートを配布しました。途中、住民の方とのふれあいもあり、まちの息吹を肌で感じることができました。

同志社山手に関わる産官学で構成されるSUC（サステイナブル・アーバン・シティ）協議会で、様々な方からご意見を伺いました。

まちづくりデザイン提案をまとめ、住民の方を対象に発表しました。

## 3. プロジェクトを通じて

through a project

私たちはこの科目を通して、実社会の中で地域、企業と連携し、調査・分析・デザイン提案といった一連のまちづくりのプロセスを自分たちで考え活動を行うことで、今後社会で求められる創造力・提案力・問題解決能力等を高める良い機会となったと思います。また、ブレインストーミングでたくさん出された、一見すると不可能なアイデアを、考えを掘り下げていくと面白いアイデアに繋がっていき、考えの幅が広がりました。